

鬼面、擊、羯鼓、吹、横笛、而舞、是謂、
拍、左、義、長、爆、之、謂、保、古、羅、加、須、

〔年中重寶記〕正月十八日、禁裏左義長、この灰を聖護院村天王御旅所に捨

〔光臺一覽〕十九日正月、正は、六十六本の左義長、土御門殿の下陰陽師大黒と申もの勤之宿所塔之

段の神子町より行列にて參上す、南殿の前に、竹に色々紙を結付、火を焚、辨面を懸、芥の裝束し、鬼

面にて夜刃衣裝杯して、大鼓鉦鼓を打、前進後退して歌舞す、其稱言は、貴也御法、左義長や御法と、

下略、平人豫參して拜見す、

〔諸國圖會〕年中行事大成正月十八日左義長、今朝辰刻左義長あり、預め諸家よりこれを獻す、上賀茂

社家も亦獻上あり、左義長爆竹の間、上賀茂の士二人庭上に侍す、先清涼殿の御庭に竹を飾り、是

に扇を結付、これを爆す、唱門師大黒松大夫、その徒四人、内二人は、翁の形をなし、二人は、嫗の形を

なし、鬼面を被り、赤熊髪を被り、二嫗は太鼓を携へ、二翁は逐舞ふてこれを打、童子二人素面に赤

熊髪を被り、腰鼓を打、又傍に袴肩衣を著たる者五人、並立てこれを囃し、止牟止也といふ、摺袴著

たる者一人、聲に和して波阿と云、其由縁を知らず、舊臘御煤拂より今日まで、竹串の調味を用ひ

られず、

〔一話一言〕十二池田氏筆記、一三毬打、正月十八日ナリ、兼葭堂云、堂上方ヨリ獻セラル、竹ニ扇子

短冊ヲ付、下ノ紙ニ姓名ヲ記サル、ナリ、トンドウヲ焚ナリ、是ハ新參ノ仕丁ナリ、此トキ白赤鬼

出テ舞ブ、是ハ土御門殿ノ卑官ナリ、所謂唱門師ナリ、

〔年中定例記〕殿中從、正月十二月迄御對面御祝已下之事

〔夜〕正月十八日に入て爆竹五本はこらかす、五ヶ番より一本づ、進上、

〔看聞日記〕應永廿三年正月十五日、地下村々松拍參、先山村木守寺之人種々風流摸舞樂參向之儀

有、其興、則燒三球杖如例、菓子二合、捶賜之、次三木村、次石井村、次舟津、各種々風流、其興千萬、皆同賜

爆竹例